

2023年7月刊行予定

図書館情報学事典

日本図書館情報学会 編

A5判・760頁 定価 22,000円(本体 20,000円+税10%) ISBN978-4-621-30820-2
※価格は変更になる場合がございます。

- 図書館の歴史や基礎論、メディア論から、情報へのアプローチ方法・組織化の技術まで、各分野の専門家178名が最新の研究知見をもとに執筆。
- 10部門、287項目立て、2頁・4頁項目を基本とした読み切りやすい構成。
- デジタルトランスフォーメーション(DX)社会を見据え、従来の紙のメディアや図書館と、情報や知のシステムとの連続性をわかりやすく解説。



日本図書館情報学会 創立70周年記念刊行

図書館情報学事典

日本図書館情報学会 編

A5判・760頁
定価 22,000円(本体 20,000円+税10%)
※価格は変更になる場合がございます。
ISBN978-4-621-30820-2

Library and Information Science

関連書籍



図書館情報学用語辞典 第5版

日本図書館情報学会用語辞典編集委員会 編
A5判・304頁
定価 4,180円(本体 3,800円+税10%)
ISBN978-4-621-30534-8

初学者から研究者まで幅広く役立つ図書館情報学の専門用語辞典として版を重ね、7年ぶりとなる第5版が刊行。基礎的概念や図書館情報学にかかわる約1,800項目を収録。



オックスフォード 出版の事典

A. Phillips / M. Bhaskar 編
植村 八潮・柴野 京子・山崎 隆広 監訳

A5判・528頁
定価 26,400円(本体 24,000円+税10%)
ISBN978-4-621-30792-2

新たな環境の変化に合わせ、数百年にわたって知的基盤を担ってきた出版という営みがいかなる要素や条件に基づいて成立してきたのかを可視化する、出版学の総合ガイド。



図書館文化論

加藤 好郎 著

四六判・218頁
定価 2,750円(本体 2,500円+税10%)
ISBN978-4-621-30635-2

図書館は社会インフラとしての機能が近年改めて注目されてきた。本書は、文化の礎たる図書館の運営や在り方を8つの章から解説する。



続・図書館空間のデザイン 実践3事例とICT導入法

益子 一彦 著

B5判・152頁
定価 3,520円(本体 3,200円+税10%)
ISBN978-4-621-30223-1

5つの先進的な事例をもとに、ICTをうまく取り入れながら図書館機能の複合化を図り、自治体が抱える課題に応える実践的な方策を多数の図版を通して紹介。

【編集委員長】

根本 彰 (東京大学名誉教授)

【編集副委員長】

倉田 敬子 (慶應義塾大学教授)

【編集幹事】 (五十音順)

- 小田 光宏 (青山学院大学教授)
- 岸田 和明 (慶應義塾大学教授)
- 三浦 太郎 (明治大学教授)
- 吉田 右子 (筑波大学教授)
- 渡邊 隆弘 (帝塚山学院大学教授)

【編集委員】 (五十音順)

- 安形 麻理 (慶應義塾大学教授)
- 河村 俊太郎 (東京大学准教授)
- 栗山 和子 (東洋大学教授)
- 小泉 公乃 (筑波大学准教授)
- 古賀 崇 (天理大学教授)
- 塩崎 亮 (聖学院大学教授)
- 瀬戸口 誠 (梅花女子大学教授)
- 橋詰 秋子 (実践女子大学准教授)
- 福井 佑介 (京都大学准教授)
- 松林 麻実子 (筑波大学講師)

【編集顧問】 (五十音順)

- 上田 修一 (慶應義塾大学名誉教授)
- 川崎 良孝 (京都大学名誉教授)
- 田村 俊作 (慶應義塾大学名誉教授)

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル 営業部
TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 <https://www.maruzen-publishing.co.jp>

丸善出版株式会社 行 FAX 03-3512-3270

注文書	注	図書館情報学事典 定価22,000円(本体20,000円+税10%) ISBN978-4-621-30820-2 ※価格は変更になる場合がございます。	冊
			冊
	文	お名前	
		ご住所 〒	
	書	TEL	

取扱店



最新情報・詳細は
こちらから
丸善出版ホームページへ

丸善出版

◆電子書籍のお求めはこちら

Mel KinaDen LibrariE KW UNIV honto Kindle

電子書籍のお求めはこちら

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

tkp.23.A0e

目次

研究者の情報行動／学術情報の検索／学術雑誌論文の読み方／研究活動と研究データ／研究動向と研究評価

【第7部門】専門情報

〈**総論**〉
専門情報と専門図書館／サブジェクトライブラリアン／MLA連携
〈**形態による専門情報**〉
視聴覚資料／視覚障害者等用資料／映画資料／写真資料／地図・地理空間情報
〈**主題による専門情報**〉
アートドキュメンテーション／医学情報／法情報／文学資料と文学館／音楽情報／西洋古典籍／和古書・漢籍
〈**発生源による専門情報**〉
政府情報／立法調査／公文書と公文書館／文書・記録／地域資料・郷土資料／社会調査データ／統計情報／スポーツ情報／演劇資料／外国語資料／放送番組／産業財産権情報／ビジネス情報／標準化

【第8部門】情報の制度・情報システム

〈**基本概念**〉
表現の自由／知る権利／アクセス権／個人情報保護／情報公開／著作権／知的財産権
〈**情報をとりまく環境**〉
情報社会／IT産業／著作権法／著作物等の国際的保護／情報セキュリティ/情報とデータの自由な流通と規制／メディアの自主規制／SNSの規制／情報流通システムの標準化／ユニバーサルな情報利用／クリエイティブコモンズ／SDGs
〈**出版流通制度**〉
近代日本の出版制度／納本制度／再販制度／公貸権／著作物利用の補償金制度／地方出版／検閲と事前規制
〈**知的自由**〉
知的自由／図書館の権利宣言／図書館員の倫理綱領／フィルタリング／パブリックフォーラム論／ガバメントスピーチ

【第9部門】図書館

〈**図書館政策と運営**〉
日本の図書館政策／海外の図書館政策／日本の公共図書館政策／日本の大学図書館政策／日本の学校図書館政策／図書館評価／図書館建築／災害と図書館／資料保存と図書館／場としての図書館
〈**人びとへの図書館サービス**〉
コレクション形成の理論／コレクション形成の実態(公共/大学/学校)/公共図書館の文献提供サービス/大学図書館の文献提供サービス/資料提供サービスと空間提供サービス/レファレンスサービス/マイリリタイサービス/プリントディスアビリティのある人へのサービス/アドボカシー/利用者協働/課金制
〈**教育と図書館サービス**〉
読書推進活動／図書館における学び/探究学習／アクティブラーニング/学修支援／ラーニングコモンズ/生涯学習と図書館/研究支援/課題解決型サービス
〈**さまざまな図書館**〉
国立図書館／児童図書館／医学図書館と病院図書館／矯正施設図書館/移動図書館／私設図書館
〈**専門職としての図書館員**〉
公共図書館職員/大学図書館職員/学校図書館職員/図書館情報学教育(日本/海外)

【第10部門】図書館の世界

〈**世界の図書館**〉
西洋の図書館(オックスフォード大学図書館/ケンブリッジ大学図書館/フランス国立図書館/ハーバード大学図書館/英国図書館/ドイツ国立図書館)/アメリカ議会図書館/ボストン公共図書館/アレクサンドリア図書館/東洋の図書館(中国/韓国/東南アジア)/日本の歴史的図書館(帝國図書館/内閣文庫/大阪府立図書館/日比谷図書館/東洋文庫/東京大学図書館)/国立国会図書館
〈**図書館の歴史**〉
古代中世における西洋の図書館／文芸共和国／書物と読み手の関係史／近世における西洋の図書館／慈善と図書館／海外の人物列伝(ノーデ/シュレッティンガー /パニッツィ/デュイ/パトラー/ランガナタン)/古代中世における日本の図書館／近世における日本の図書館／日本の人物列伝(田中稲城/佐野友三郎/今沢慈海/間宮不二雄/森清/前川恒雄)/アメリカの図書館史研究／日本の図書館史研究
〈**図書館に関わる機関・団体**〉

日本図書館協会／図書館情報学教育機関／図書館専門職団体と関係団体(アメリカ図書館協会/CILIP/国際図書館連盟/ASIS&T/情報科学技術協会/アメリカ博物館・図書館サービス機構)／図書館情報機関と関連機関(アメリカ国立公文書記録管理院/OCLC国立公文書館(日本)/国立情報学研究所)／図書館情報学会と関連学会(日本図書館情報学会/日本図書館研究会/情報処理学会/三田図書館・情報学会/日本図書館文化史研究会)

〈**物語としての図書館**〉
普遍図書館の夢/メタファーとしての図書館/メメックスのもたらした世界/図書館をテーマとする文学[薔薇の名前]/[図書館警察]/[愛のゆくえ]/[海辺のカフカ]/[図書館戦争]/[おさがりの本は]/[図書館をテーマとする映像作品(格子なき図書館)]/《ある日どこかで》[ショーシャンクの空に]/《耳をすませば》/《パーティエール・ガール》/[ニューヨーク公共図書館 エクス・リプリス]

【**巻末資料**】
引用文献一覧
事項索引/人名索引

刊行にあたって

本書は、日本の図書館情報学の全体像を把握できるレファレンスツールとなることを目指して、2020年に編集を開始した。

図書館情報学を取り巻く情勢が国内外ともに大きく変貌を遂げようとしているときにあって、従来までの図書館情報学の範囲や準拠枠を示しつつも、必ずしもこれまでの議論にとらわれずに最新の研究動向をコンパクトにまとめることや、「読む事典」として一般の読者にとっても興味をもてるようなわかりやすい記述をするといった編集方針を掲げた。実際に仕上がったものを見ると、新しい視野の下での図書館情報学像を提示することができたと考える。

この間、COVID-19の流行期に重なったことで、社会全体がデジタルトランスフォーメーション(DX)の様相を帯び、ICT基盤社会の本格的実現を目の当たりにすることになった。そのことは図書館情報学の本質を見えやすい方向に導いたとも言える。それは、オンラインでの接続が可能であれば、どこにいても資料や情報にアクセスする仕組みが整いつつあり、知的コンテンツ利用が情報行動の基準になったからである。

図書館情報学という名称は、図書館という施設名に情報学という学問名がついているという点で不思議な響きを与えることがあるらしい。この学問の成立の経緯や歴史・現状については本書中のいくつかの項目で説明しているので参照されたいが、簡単に言えば、図書館とは、書物や雑誌のような知的なコンテンツを含む資料を情報のパッケージと見なして、これらを組織化して利用に供する仕組みのことで、前身の図書館学は知の管理に関わる分野とされていた。西洋でこれに携わる司書という専門職が成立したのは19世紀後半のことであり、日本にも20世紀初頭にそれが入り図書館学が始まった。これが20世紀後半になると、資料はデジタルデータで表現されコンピュータで処理可能になった。それにより必然的に情報学的な要素が強まり、その動向に併せて学会名を現行の日本図書館情報学会としたのは1998年のことだった。

さらに四半世紀が過ぎ、情報の知的処理技術の進歩と社会的な情報基盤整備が進んで、図書館情報学が書物や雑誌のようなものだけでなく、データや情報を意味のある知的なものとらえるための手法やそれを管理するための分野であるにとらえる視点は一般に共有されるものとなった。ネット社会の到来で図書館情報学の本質が見えやすくなったというのはこれを指している。

本書では、図書館情報学を10の部門に分けて解説することにした。最初の第1部門、第2部門は、図書館情報学が資料や情報どのようにアプローチするのかを示す基礎論やメディア論を扱う。続く第3部門と第4部門は、資料や情報の組織化や検索・利用の原理を説明し技術的な展開を示している。さらに第5部門から第7部門までは、資料や情報の利用者の情報行動や、学術や専門的な利用者コミュニティを取り上げる。第8部門は情報管理の制度面を扱い、第9部門と第10部門は機関としての図書館とそれが歴史的社会的に現れた具体的な様態を取り上げる。いずれも、従来の紙のメディアや狭い意味での図書館が、広く一般的な情報や知のシステムに連続的に連なっていることが分かるような構成を心がけた。

デジタル化は図書館情報学と隣接する分野の境界をますます曖昧にする方向に作用しているし、かつて専門研究者しか使えなかったツールやデータベースがインターネットを通して誰もがアクセスできるようになっている。その点で、読者として、図書館情報学の教員・研究者、図書館関係者、図書館情報学の学習者、司書課程の学習者を想定しているが、同時に、隣接分野の研究者や専門家、一般の読者にとっても役立つものとなることに努めた。

本書が、21世紀の図書館情報学において常に参照されるべきツールとして利用されることを願いつつ、これを世に送りたい。

編集委員長 根本 彰

<p>目次</p> <p>1 図書館情報学</p>	<p>2 基礎論</p> <p>3 学術情報学</p>	<p>4 学術情報学</p> <p>5 学術情報学</p>	<p>6 学術情報学</p> <p>7 学術情報学</p>
<p>8 学術情報学</p> <p>9 学術情報学</p>	<p>10 学術情報学</p> <p>11 学術情報学</p>	<p>12 学術情報学</p> <p>13 学術情報学</p>	<p>14 学術情報学</p> <p>15 学術情報学</p>